

2017年2月26日(日)朝10:10  
2月第4共同主日礼拝式説教

主の降誕節第10、自由交歓会等  
日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：第7の封印について、 天に顕われた徴

聖書:ヨハネの黙示録 12章1～6節

＜口語訳＞

新約聖書397～398頁

ヨハネの黙示録 12章1～6節

＜新共同訳＞

新約聖書465～466頁

ヨハネの黙示録 12章1～6節

＜新改訳第3版＞

新約聖書489頁

ヨハネの黙示12章1～6節＜塚本訳＞

新約聖書801～802頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰の励ましと神の御子の愛の思い、2章～3章は、7つのアジアの教会への手紙、4～5章は、屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讚美、6～9章は、「巻物」第1～6巻開封、144,000人の戦い、御使の祈り、人間を害する蝗による神の裁き、人間殺害の4人の御使い解放で、10章は、強い天使が神の恵みの啓示と審判、創造主へ誓い、ヨハネが巻物を食べこと、11章は、2人の証人の奉仕と殉教、主の王即位と24人の長老の神礼拝、神服従者への報いの箇所です。
- ◇ヨハネの黙示録12章1～6節は、男の子を生む女性と迫害者の龍(悪魔・サタン)との戦いをヨハネに啓示された箇所です。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第12章1～6節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録12章1～2節；ヨハネは、身ごもった女性の生みの苦しみを啓示されました。

◇1～6節；塚本訳◆**太陽を着た女**

「1 また大きな徴が天に顕れた——太陽を着た(一人の)女が、足の下には月を足台とし、頭には十二の星の冠を戴いていた。

2 そして懐妊していて、子を産もうとする痛みと苦しみのために(大声に)叫んでいる。」と、ヨハネは子を身ごもった女性の生みの苦しみを啓示されました。

◇1～2節；ヨハネは、「太陽を着」、「足の下には月を足台とし、頭には十二の星の冠を戴き」、「懐妊していて、子を産もうとする痛みと苦しみのために(大声に)叫んでいる女性」という「大きな徴が天に顕れた」のを見ました。

⇒「この女性」は、5節のことから「旧新約の神の民イスラエル」を示し、「生まれる男の子」は、「神の御子イエス・キリスト様」です。

⇒「男の子」は、「再臨の主」です。

- ⇒5節の「鉄の杖を以て凡ての国民を牧すべき男の子を産んだ」は、「メシヤ・救い主預言の詩篇」と言われる「詩篇2:9」のことばの引用で、「女性」は、母マリヤを連想させますが、11節などの記録を見ると、「旧新約の神の民イスラエル」と理解されます。
- ⇒11節の「自分たちのあかしをする兄弟たち」は、「キリスト者」と、理解されています。
- ⇒「女性」は、赤い「龍(悪魔・サタン)」から迫害を受け、逃げる弱い存在ですが(6)、「太陽を着」、「足の下には月を足台」とし、「頭には十二の星の冠」を与えられていました。
- ⇒「太陽」は、神の恵みの輝き、「足の下には月を踏む足台」は、神の恵みをもって暗闇を支配すること、「頭には十二の星の冠」は、「神の勝利の栄冠」と「神の民イスラエル」又は「神の霊のイスラエル」を示す「十二の星」の「冠」を着け、「神の恵みの力」が、「女性・旧新約の神の民イスラエル」を守っているのです。
- ⇒「龍(悪魔・サタン)」は、現実の社会では、今もなお、「この世の君・王」ですが、神は、「神の民」を神で着飾り、神の勝利を保障されます。

◆ 黙示録12章5～6節 ;ヨハネは、神が、女性が生んだ男の子に鉄の杖を与え、女性には、1260日の荒野での養いの恵みを用意をされたことを啓示されました。

◇ 1～6節 ;塚本訳 ◆ 太陽を着た女

「5 彼女は(遂に子を)——鉄の杖を以て凡ての国民を牧すべき男の子を産んだ。するとその子は(竜が手出しをする前に、)神の御許に、その御座の許に挙げられた。

6 またその女は(竜を)逃げて荒野に行った。——其処には千二百六十日の間彼女を其処で養うために、神の備え給うた場所がある。」と、ヨハネは女性の生んだ男の子と女性の荒野での養いの神の恵みを啓示されました。

◇ 5～6節 ;ヨハネは、「女性」が「生んだ男の子」には、「凡ての国民を牧すべき鉄の杖」が与えられますが、「(竜が手出しをする前に、)神の御許に、その御座の許に挙げられ」るのです、また「女性」も、「荒野での神の養い」を受けることをしられました。

⇒「神の民」には、常に「神の救い」の希望あり！

- ⇒ヨハネ黙示録は、**高齢**となったヨハネに様々な**神の黙示・啓示**を与え、「**多くの殉教者**」があつて、「**女性のように教会の生みの苦しみ**」、「**神の教会の牧会**」に労苦して来たことが、決して無駄ではなかったことを指し示すものです。
- ⇒**神の御子の心・思い**をもって、**神の御子**に従う者は、「**自分の十字架を背負って、わたしについて来なさい**」(マルコ8:34)と、**神の御子**が命じられたみことばがありますので、「**十字架**」を背負う苦難はもとより、病気、人災、震災などを背負ったり、**神の子の名**を受けたゆえの苦難もあります。
- ⇒それらのあらゆる苦難は、「**神の救いの恵み**」に与る「**希望**」を生み出す「**神の恵み**」です。
- ⇒**私の恩師、OM師**は、「**夏の暑さも、冬の寒さも**」、**神の恵み**だと語り、「**夏の暑さ、冬の寒さ**」を感謝するように導いて下さいました。
- ⇒**IT師**も、毎朝、**神のみことば**である聖書を味わって、**神への感謝**から生活を始めることが大切だと語っておられます。
- ⇒私たちは、**神の恵み**を着せて頂いています。

## 結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰の励ましと神の御子の愛の思い、2章～3章は、7つのアジアの教会への手紙、4～5章は、屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讚美、6～9章は、「巻物」第1～6巻開封、144,000人の戦い、御使の祈り、人間を害する蝗による神の裁き、人間殺害の4人の御使い解放で、10章は、天使の恵みの啓示と審判、創造主へ誓い、ヨハネの巻物の食事、11章は、2人の証人の奉仕と殉教、主の王即位と24人の長老の神礼拝、神服従者への報いです。
- ◇ヨハネの黙示録12章1～6節は、男の子を生む女性と迫害者の龍(悪魔・サタン)との戦いをヨハネに啓示されました。

- ⇒「**神の栄光の御座**」での「**24人の長老**」と「**4つの生き物**」の**神礼拝・神讚美**は、「**主キリスト・イエス様が天のみならず、地の上・この世でも、王となり給うたことを感謝**」する結末を与えられています。
- ⇒地上に今生かされています私たちも、「**神礼拝・神讚美**」は、この幻のように実現することを信じて、「**主がこの世の王となり給うたことを感謝**」すると、告白しています。
- ⇒「**死**」という最大の苦難を思う前に、「**恵みの約束の神**」に思いを向けたいと、願います。
- ⇒**ヨハネ黙示録**は、「**苦難**」先にある「**神の救い**」という「**神の恵み**」を見せ、また指し示します。
- ⇒**A.B.S師**は、旧約の有能な預言者であるサムエルが、サウルを王とした時の欠点を指摘しています。民の要求に負けた預言者を神は受け入れて下さるのですが、サウルを王とすることを喜んではおられなかったのです。サムエルは、王権の厳しさは知っていましたが、サウル的美男子という外観の陰に隠れていた「**彼の傲慢さ、猜疑心**」を見抜けなかったと、**A.B.S師**は語ります。